

こんにちは。女性部長尼崎です。

今回は、『都道府県対抗女子駅伝』について、レポートしています。

都道府県対抗女子駅伝は、昭和58年から始まり、今年の大会が第31回大会でした。

昨年、各県の陸上競技協会に、30周年を記念して、『都道府県対抗女子駅伝30周年史DVD』が配布され、始まってからの上位入賞チームや活躍した選手の紹介、歴史などがたくさんつまったものを拝見させていただきました。下写真は、長崎県が初優勝したときのゴール（西尾選手）の写真です。



私自身、平成21年度に都道府県対抗女子駅伝のコーチをさせていただきましたが、初めて現地で大会に携わった感動は今でも忘れられません。

それと同時に、長崎県のチーム力のすごさにもふれることができました。

まず、この大会のために、早いうちから中・長距離ブロック担当の強化の先生方が中心となり、合宿や中学生も含めた合同練習等を企画・運営し、春休み、夏休み、冬休みに一斉に合同合宿を実施している他、ここ最近では、実業団から帰ってきた選手たちが、合宿や練習会に積極的に足を運び、スタッフや選手のサポートをしてくださっています。嬉しい限りですし、選手たちはすごく励まされたことと思います。今年の大会も力を出しきり、よく健闘していました。

都道府県合宿 1 / 3



記録を読み上げながら、自らもフィールドをかけまわり、大きな声で選手に声をかけていました！



声かけをしながら、選手をひっぱってくれています

この日はスタッフ含め支援・練習補助、応援に6名ほどの女性が参加しました。

この駅伝が、いろいろな思いと伝統を受けついで、これまでに至っていることがとてもわかります。



